CLIPS紙上見本市

ぺんてる

速乾タイプが登場
筆と慶弔サインペンに

◆「速乾ぺんてる筆」「慶弔サインペン・速乾」＝ぺんてる筆シリーズの書き味はそのままに、インキの速乾性を向上させた速乾筆ペン。

1976年の発売以来、毛筆筆ペンの先駆けとして愛されてきたロングセラー「ぺんてる筆」は鮮やかな発色のインキと、伸びが良くみずみずしい書き心地が特徴の筆ペンシリーズ。

新発売の速乾筆ペンは、従来品より5倍速く乾き、手や紙面を汚しにくく、たくさん書いたときも乾かすための場所や時間を取らない。顔料を用いたインキのため、にじみにくく筆跡をきれいに仕上げることができ、耐水性・耐光性に優れている。はがきに書いた宛名が雨に濡れてにじんでしまうのを防いだり、長期間保存しておきたいイラスト作品に用いれば、退色を防ぐことができる。

速乾のぺんてる筆と慶弔サインペン

書いた後すぐに乾き、筆跡を水や光から守る、安心のインキ。

毛筆タイプの「速乾ぺんてる筆」は、ぺんてる独自の加工技術により一本一本までこだわり抜いた、コシのあるナイロン製の穂先を採用。しなやかでまとまりの良い穂先なので、本物の筆のような書き味を楽しむことができる。黒・極細、黒・中字、うす墨・中字の3種。各660円。筆に不慣れ人でも使いやすいサインペンタイプの「慶弔サインペン・速乾」は黒とうす墨のツインタイプ。330円。

抗菌仕様や感染対策商品

○…ベロス（東京都）

◆「抗菌カードケース」＝業界初の表面に抗菌加工を施した硬質タイプのカードケース。

中身がよく見え、紙の折れや汚れを防ぐ透明ハードタイプ。抗菌加工のSIAAマーク取得製品。A4・495円、B5・407円。

◆「飛沫感染防止カーテン　ワイヤーハンガー付きセット」＝樹脂製バー付き透明シートと吊り下げ用のワイヤーフックをセットした飛沫防止カーテン。

ワイヤーフックは上下付属のネジフックで壁や柱から、また、ポールやパイプにワイヤーを通して吊り下げるなど、飛沫感染が気になる空間の間仕切りに活用できる。ワイヤーフックは高さ調整が簡単にできる。シートサイズは900×900㍉。厚さ0・2㍉のスタンダードタイプ2750円、厚さ0・3㍉の防炎タイプ3300円。

◆「ステンレスボトルラック」＝消毒ボトル容器を設置できる強力マグネット付きのステンレス製ボトルラック。8月発売予定。

ラック裏面が超強力マグネットで、ロッカーや扉などのスチール壁面にピタッと引っ付く。取り付け、取り外しも簡単。オフィス、店舗、工場など様々なシーンに活用できる。1430円。アルコールはステンレスに影響を及ぼすことがなく、ラック自体をアルコールで消毒することもできる。

ステンレス製のボトルラック

パイロット

使用済みペン回収
都内でテスト運用開始

株式会社パイロットコーポレーション（伊藤秀社長、東京都）は、都内取引先協力のもと、使用済みペン回収プログラムのテスト運用を7月から9月末まで実施する。

同社では、2020年4月より環境負荷の低減と循環型社会実現の一助になることを目指し、社内において同社の従業員及び家族を対象に家庭内の使用済み筆記具を回収してリサイクルするペン回収プログラムを実施してきた。

今回、その対象を広げ、ユーザーにも参加できるプログラムとなるよう都内近郊約30店の取引先の協力の下、期間限定で店頭に回収ボックスを設置し、使用済みペン回収プログラムのテスト運用を実施。その後、テスト運用の結果を検証し、環境への取り組みとして広く全国のユーザーが参加できる活動形態を検討していく。

恐竜の画像・動画インスタで募集

○…マルアイ（村松道哉社長、山梨県市川三郷町）

株式会社マルアイは、こどもも大人も夢中になれる恐竜の世界を、イベントだけでなく、おうちでも楽しめる企画として、「恐竜×ヌーリエ フォトキャンペーン」を、7月9日～9月12日まで開催。

キャンペーン期間中、恐竜図鑑のぬりえ「ヌーリエブック キョウリュウ ズカン」を塗っている写真や動画をインスタグラムで募集。応募者の中から5人に、賞品として恐竜図鑑セット（「学研の図鑑LIVE恐竜」1冊、「恐竜のクイズ図鑑」1冊、「恐竜バスボール」1個）を進呈する。

マルアイのキャンペーン

「ヌーリエブック キョウリュウ ズカン」は、恐竜のテーマパークを描いた長い（1820㍉）ぬりえ。「学研の図鑑LIVE」監修の解説やAR機能付きで、恐竜について学べる図鑑にもなっている。ページごとに少しずつ塗ったり、床に広げてみんなで塗ったり、夏休みに家族や友達と楽しめる。

オンライン接客サービスを開始

○…東急ハンズ

株式会社東急ハンズ（木村成一社長、東京都）は、客の買い物行動・ニーズの変容・多様化に応え、「オンライン接客サービス」などの新たなデジタル活用のサービス提供を開始した。

同社は、デジタル上でのサービスや、コロナ禍での客とのコミュニケーション強化を継続している。

そのひとつが東急ハンズスタッフの商品知識と品揃えを元に、自宅にいながらスマートフォンやパソコンのビデオ通話を通して商品を比較・検討できる「オンライン接客サービス」。渋谷店では6月下旬からDIYカテゴリ（道工具・防犯・防災・シューケアなど）で実施。梅田店では7月16日から「Hi Tenshu」プロジェクトの店主（文具・DIY・寝具）3人に、専門スタッフである「ビューティコンシェルジュ」「シューケアマイスター」を加えた5人でサービスを行っている。

また、来店のうえ商品知識豊富なスタッフによる接客を希望する客にも、待ち時間なくスムーズに案内できるよう、一部の接客サービスをWEBから事前予約できる「接客予約サービス」や、探している商品が店内のどのあたりにあるかを検索できるWEBサービス「ドコアルノ」の提供を一部の店舗で導入しており、今後は順次、導入店舗を拡大予定。

ウィズコロナの時代

「家」の定義が変わる

カウネットが「家での過ごし方」について調査

在宅勤務有職者の4人に1人

株式会社カウネット（高橋健一郎社長、東京都）は、オフィスの実態や困りごとについて調査するコミュニティサイト「カウネットモニカ」会員全国の男女合計1387人を対象に「〈ウィズコロナの時代〉これからの生活様式（家での過ごし方編）」と題した調査を実施した。

それによると、在宅勤務をしている有職者は約4人に1人。新型コロナウイルス感染拡大前後で「家」の定義が変わったとの回答は在宅勤務している人は約半数、在宅勤務していない人では約2割。「家」の定義が変わった理由は、在宅勤務している人は「家で仕事をするようになったため」。その他は「家で家事をする回数が増えた」「家族・同居人と過ごす時間が増えた」など。在宅勤務している人の65%が「家」の定義が変わったことは良かったと回答。在宅時のプライベートな時間に始めたことや時間をかけるようになったことは、「テレビや動画視聴」「運動・エクササイズ」。約半数が、在宅勤務は職場で働く時より体の負担があると回答した。結果の概要は次の通り。

■在宅勤務をしている有職者は約4人に1人

有職者の在宅勤務の状況については、「在宅勤務している」と回答した人が25%。有職者かつ「自分が在宅勤務または在宅学習をしている」と回答した人を「在宅勤務している人」とし、それ以外の回答者を「在宅勤務していない人」としている。

■自宅での過ごし方で増えたことは、「仕事」「テレビや動画の視聴」「SNS・インターネット」と回答

新型コロナウイルス感染拡大の前後を比較して、自身や家族・同居人の自宅での過ごし方で増えたことはどのようなことかを聞いた結果は、「在宅勤務している人」は、「テレビや動画の視聴」「SNS・インターネット」と回答した人がそれぞれ約52%、次いで「仕事」が46%。「在宅勤務していない人」も、「仕事」以外の順位はほぼ同様の結果だったが、「在宅勤務している人」の方が、それぞれの数値が高めになっていることがわかる。

■自宅での過ごし方の中心は、在宅勤務している人は「仕事」、していない人は「自分の時間」

新型コロナウイルス感染拡大後、自身や家族・同居人の家での過ごし方は何が中心になったかを聞いてみると、「在宅勤務している人」は「仕事・学習」が31%という結果に。「在宅勤務していない人」は「自分の時間」が29%でトップ、「家事・家の用事」「家族・同居している人との時間」がそれぞれ約20%。

■「家」の定義が変わったとの回答、在宅勤務している人は約半数、在宅勤務していない人では約2割

新型コロナウイルス感染拡大後、「家」の定義が変わったかについては、「在宅勤務している人」は約半数が変わったと回答しているのに対して、「在宅勤務していない人」は約2割で、意識の差が顕著に表れた。

■「家」の定義が変わった理由は、在宅勤務している人は「家で仕事をするようになったため」がトップ。その他「家で家事をする回数が増えた」「家族・同居人と過ごす時間が増えた」

前問で「家」の定義が変わったと回答した人にその理由を質問してみると、「在宅勤務している人」では、「家で仕事をするようになったため」が67%、次いで「家で食事をする回数が増えた」44%、「家族・同居人と過ごす時間が増えた」35%という結果に。「在宅勤務していない人」は、「家で食事をする回数が増えた」が53%でトップとなった。

■在宅勤務している人の74%、していない人の65%が、「家」の定義が変わったことは良かったと回答

「家」の定義が変わったことをどのように捉えているかについては、良かったとの回答が、「在宅勤務している人」では74%、「在宅勤務していない人」では65%を占めた。

次に「家の定義が変わったことはあなたにとって良かったと思うか」について聞き、良かった理由と良くなかった理由を調べた。

良かった理由

①毎日出社して仕事をする必要性がないこと、在宅により出勤時間で往復2時間を無駄にしていることを実感した。

②在宅勤務もずっとでなければ、楽しめるようになってきた。

③もう慣れたので現状が普通になった。今後、元に戻ると通勤が面倒に思いそう。

④働く場所の制限がなく自由なスタイルで働くことができるようになった。今後は「どのように働きたいか、どこで生活したいか」自分の意思をきちんと持って生きていくことがより重要になると思う。

⑤コロナで在宅勤務をはじめてやったが問題なくできるので、今後も続けたい。通勤しないですむことでストレスが格段に減った。

⑥家族で一緒にいる時間が増えて、それがストレスになることなくてもいいコミュニケーションが取れていると思う。今まで以上に仲良くなった気がする。それと家事をみんなで分担するようになったのもよかった。

⑦子供という時間が増えて色々な話をするようになった。

⑧仕事で遅くなるので家族と食事を摂れなかったが、コロナで家にいる時間が増えたので家族とゆっくり会話をしながら食べている。楽しい時間に。

⑨持病があり体調が悪い時でも年休を使わず家で仕事ができる。

良くなかった理由

①コロナ禍私の仕事はいつも通りなのに、家族がリモートワーク、リモート学習になり、日々の食事の支度など家事の回数が増え疲れている。仕事で出社している時間が唯一の自分時間となっている。

②自宅で仕事をするとオンオフの切り替えが難しくリラックスできない。やらなければならないことの上位が仕事になるため常に仕事をしたり、仕事のことを考えている。

③ネット通信環境が悪いので業務効率が落ちた。家族の声が電話やネット会議時に入ってしまう事がある。

■在宅時のプライベートな時間に始めたことや時間をかけるようになったことは、「テレビや動画」「運動・エクササイズ」

在宅時のプライベートな時間に新たに始めたことや時間をかけて行うようになったことは、「テレビや動画視聴」「運動・エクササイズ」「SNS・インターネット」「仕事」「家族・同居している方と過ごす」「料理」「掃除」「本・新聞・雑誌などを読む」「リラックス」「趣味」「家族・同居人と過ごす時間が増えた」「家事・家の用事」「学習」「在宅勤務している人との時間」「自分の時間」「睡眠」「家族・同居人と過ごす時間が減った」「家族・同居人との時間」「家事・家の用事」「学習」「睡眠」「自分の時間」「在宅勤務している人との時間」「家族・同居人と過ごす時間が減った」「その他」「特にない」

■在宅勤務の場所は、「自分の部屋」「リビングルーム」

在宅勤務をしている場所は、「書斎などの自分専用の部屋」が39%、次いで「リビングルーム」が34%で上位を占めた。

■在宅勤務に使用しているテーブルは、「ダイニングテーブル」が3割強で1位

在宅勤務をする際に使用しているテーブルやデスクは、「ダイニングテーブル」が31%でトップ、次いで「ローテーブル・座卓・こたつ机」24%で、専用のものではないものを使用しているケースが多いことがわかった。

■約半数が、在宅勤務は職場で働く時より体の負担があると回答

在宅で仕事をしていると、職場で働く時と比べて肩が凝るなど体の負担があるかどうかについては、「ある」と回答した人が52%。

■在宅勤務中の体への負担軽減のためにしていることは、「定期的な休息」「定期的に立つ」「ストレッチ」

在宅勤務中の体への負担軽減のために工夫していることは、「定期的に休息する」が48%、次いで「定期的に立つようにしている」「ストレッチをする」がそれぞれ44%。

■在宅勤務中のオンオフの切替方法は、「飲み物を飲む」「仕事道具の出し入れ」「食事」「散歩」

在宅勤務中のオンオフの切替方法は、「飲み物を飲む」が34%と高く、次いで「パソコンなど仕事道具を出す・片付ける」「食事をとる」「散歩に行く」がそれぞれ約2割程度。